



関係人口と  
協働する  
【自然保全】

2020

# 海洋資源活用プロジェクト

[富山地域]

## 実施者

＜教員＞千葉工業大学先進工学部生命科学科 五明美智男

＜参加者＞新型コロナウイルス対応のため学生参加は見送り

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市産学協働地域活力創造事業 PT 会議（市民課市民協働 G、教育委員会）

【企業等】川きん、民宿川きん、富楽里とみやま大漁市場、岩井民宿組合

【学校】南房総市立富山小学校 5 年生クラス 32 名、5 年生担任および関係教諭

## 背景と目的

2018、2019 年度の成果をふまえ、小中一貫校の富山学園の小学 5 年生を対象に、箱庭生態系模型を用いた岩井海岸、富山町の未来ビジョンづくりを試行した。小学 1 年から中学 3 年まで続く 9 年間の「富山学」の折り返し時に、自分で見て手を動かしてものをつくり、自分たちの地域や海岸の将来を意識できるような原体験の機会提供を意図した。

## 活動内容

### (1) 第 1 回 岩井海岸研究紹介と授業中につかう手法の説明

自己紹介と研究紹介をとおして海岸の魅力を伝えるとともに、授業で使う PKJ 法(写真による KJ 法)と箱庭生態系模型について、岩井海岸、印旛沼などの作成例を展示して説明した。あわせて夏休みの取り組みについて提示した。(7 月 29 日 3、4 限)

### (2) 第 2 回 箱庭づくりのワークシート、コンテンツシート作成

ワークシート(総合学習の振り返り、富山の良いところ、富山の課題、10 年後の富山、100 年後の富山、富山の写真)、コンテンツシート(表現したいイメージ、箱庭で使えそうな材料、作るものの書き出し)の作成を行った。(9 月 15 日 5、6 限)

### (3) 第 3 回 紙粘土コンテンツづくり、コンテンツシート完成

シート完成後、紙粘土を使ったコンテンツ作りの試行時間を設けた。(9 月 16 日 1、2 限)

### (4) 第 4 回 作ってみよう①

30cm × 30cm の小型箱タイプでの模型の製作を開始した。(10 月 13 日 5、6 限)

### (5) 第 5 回 作ってみよう②

第 4 回後にクラスで実施した富山のまとめ資料も参考に、模型作りと色ぬりを行った。(11 月 24 日 5、6 限)

### (6) 第 6 回 模型作品の発表準備および発表

内容の説明(何を作ったか)、模型を作った理由、作品を通して伝えたいこと、作品作りで工夫したことについてチームごとに発表を行った。(12 月 18 日 3、4 限)

### (7) 第 7 回写真と実物で見る岩井海岸、関係者での振り返り

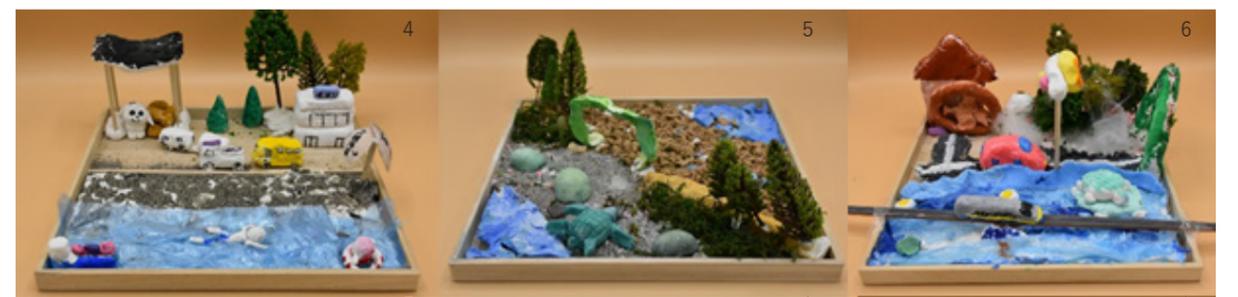
研究成果としての標本、写真を持参し、地域と将来を考える機会として、今、子どもたちができること、興味を持てることへの気づきを促す講義を行った。あわせて、関係者での振り返り、成果と課題確認を行った。(1 月 21 日 5、6 限)

## 成果と課題

コロナ禍、対策をしながら、授業を展開できたことを関係の皆様にお礼申し上げたい。紙面の制約で記載できないが、子どもたちの発表は提案と夢を包含した内容的にも素晴らしいものであった。地域貢献面として、大学教員の地域環境教育へのかかわりを



1, 2 箱庭生態系模型づくりの様子  
(1: 第 4 回紙粘土、2: 第 5 回色ぬり)  
3 紙粘土を使ったコンテンツ



4～11 作成した箱庭生態系模型  
4 「富山の未来は」  
5 「今の海みんなの願いとどけよう」  
6 「未来の富山」  
7 「自然豊かな平久里」  
8 「未来の海をこうするために」  
9 「未来の岩井海岸」  
10 「岩婦湖」  
11 「未来のために守っていききたい自然豊かな海」

“点”ではなく“帯”として実施したこと、ものづくりを含む総合学習として子どもたちの興味、集中を喚起し、ワクワク感を提供できたことを挙げておきたい。教育面としては、大学生の参加を見送ったが、本授業の継続実施の際の小学生と大学生の協働についてアイデアを練る機会を、また大学生参加がたらす効果についてイメージを得ることができた。

## \*表彰・マスコミ掲載など

特になし